

大和市女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進企業紹介

市は毎年、性別に関わらない採用や登用、働き方などについて柔軟性や独自性に富んだ取り組みを行うことにより、従業員一人ひとりがそれぞれの能力を発揮し、活躍している企業を「大和市女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進企業」として表彰しています。

令和6年度は株式会社 ジェー・アール・シーが選考され、令和6年11月21日(木)に開催した大和市産業人表彰式で、大和市長から表彰状と記念品を贈りました。

令和6年度表彰企業 株式会社 ジェー・アール・シー

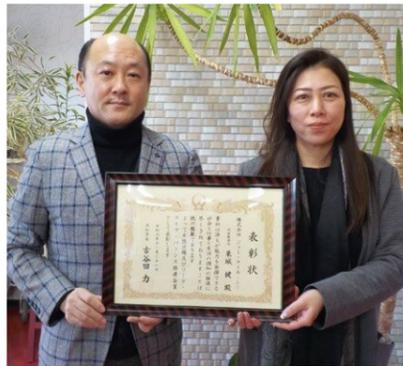
～表彰理由～

性別や国籍等にとらわれない採用や管理職への登用を積極的に行うなど、女性活躍・男女共同参画に関する意欲的な取組が評価されました。また、代表者自身が、子育てや介護、地域活動へ積極的に参加し、社員に対しても積極的な参加を呼びかけるなど、ワーク・ライフ・バランスやイクボスに関する取り組みも行っている点が評価されました。

【所在地】大和東3-9-3

【業種】不動産・建設・シニアサポート事業

【代表者】代表取締役社長 栗城 健



Q3 働きやすさについて感じていることを教えてください

木村部長 お客様から、様々なご相談をいただくのですが、できるところまでお手伝いしたいと思った時に、社長含め上席がそれを否定しないで、入社したときからチャレンジさせてもらっています。

自主性を重んじながら、一人の知恵よりチームワークで、のびのびとやらせてもらっています。



木村部長

また、両親の体調が悪くて、半休をいただいたりすることが一昨年ぐらい前からあるのですが、スタッフみんなが協力してくれて、「早く行きなさいね」というふうに言ってもらえて…。ありがたいことですね。

栗城社長 私自身、自分の家族があるから仕事ができるのであって、そこはもう一緒だと思います。みんながフォローして、ワンチームですね。



木村部長の提案で取り入れたゲーミングチェアで効率アップ！

Q4 社員のモチベーション向上のために実践していることや制度を教えてください

栗城社長 社員から出資を募り、社員自身が株主になっています。経営者の目線で、「自分たちの会社」と思えることがモチベーションの向上につながると思います。

資格の取得も励行しています。資格を取得すると、自信につながり、その人自身を際立たせるものになります。

また、休暇取得のきっかけづくりとして、個人の誕生日月に取得できる“バースデー休暇”を設けています。コミュニケーションについても、アットホームな感じで、新しく入ってくる人たちにとっても居心地がよくなるようにやっています。



栗城社長

Q5 表彰後にな変わったことなどがあれば、教えてください

栗城社長 いろんなところに行くと褒められますよ。この間も、相模原での会合のときに、女性の社長の方から、「栗城さん、素晴らしいわね」と言われてね。



終始、なごやかに話していました。

(株)ジェー・アール・シーの栗城社長、木村部長に、やりがいや社内の雰囲気などについて、お話をいただきました。

Q1 御社の業務内容について教えてください

栗城社長 業務内容は、売買・賃貸の仲介、物件管理、リフォームなどの不動産全般です。注文住宅も当社で行っています。お客様が高齢者になりつつあって、5年ほど前に「老人ホームを探してほしい」と言われたことをきっかけに、老人ホームの紹介業務もはじめました。



今年で創業41周年

Q2 どのようなところにやりがいを感じますか

栗城社長 住宅を購入していただいたり、建築していただいたりすると、そのお客様の人生におけるいろいろな夢がでてくるんですね。そういうところが楽しいですよ。また、担当したときには小さかったお子様が成長して大学生になっても覚えていてくれたりすると、やっぱりうれしいですよ。

以前、当社で住宅を新築された方々に対して、大手住宅情報誌の取材がありまして、顔出しの写真撮影にも応じてくださった。住宅に満足されている証で、誉ですよ。



住宅を新築された方が掲載されている記事の数々

コラム

アンコンシャス・バイアス

アンコンシャス・バイアスとは、日本語で「無意識の思い込み」などと表現され、誰にでもありうるものです。例えば、「女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない」、「仕事より育児を優先する男性は仕事に対する意欲が低い」、「家事・育児は女性がすべきだ」・・・こうした思い込みは日常にあふれていますが、一人ひとりが「思い込み」だと気付くことができれば、誰もが活躍できる社会に近づくのではないのでしょうか。まずは「アンコンシャス・バイアスに気付こう!」を心がけてみてください。

今すぐできるアンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント

- Point 1** 「べき」「普通は」に注意・・・こうした言葉が思い浮かんだら、少し立ち止まって考えよう
- Point 2** 相手の「サイン」を見逃さない…相手の表情や声のトーンが変わったら、自身の言動を振り返ろう
- Point 3** 常に自分に問いかける…常に自身の言動を振り返り、「これで大丈夫?」と問いかけよう